

コスタリカ内政・外交定期報告(2025年8月)

【ポイント】

内政

- 通常国会開始、4-3勤務制法案が最優先課題
- 国民権党(PPSO)が大統領候補フェルナンデス氏を承認

外交

- 米国、国家安全保障上脅威とみなすコスタリカ人の査証取り消しを発表

【本文】

内政

- 通常国会開始、4-3勤務制法案が最優先課題

8月1日より、通常国会が開始された。今会期は、4-3勤務制(週休3日制)法案の議論に時間を要する可能性が高い。4-3勤務制は、フリーゾーンやテクノロジー産業など、継続的な生産サイクルが必要な企業を念頭に導入が検討されている。

- 国民権党(PPSO)が大統領候補フェルナンデス氏を承認

8月10日、チャベス派後継政党である国民権党(PPSO)は、元閣僚のラウラ・フェルナンデス氏を次期大統領選挙の大統領候補として承認した。フェルナンデス氏は、元経済大臣のフランシスコ・ガンボア氏とキリスト教社会統一党(PUSC)元党员で弁護士のダグラス・ソト氏を第一・第二副大統領候補として指名している。

外交

- 米国、国家安全保障上脅威とみなすコスタリカ人の査証取り消しを発表

8月3日、米国は、国家の安全保障や公共の安全に対し脅威とみなしたコスタリカ人の査証を、自国の基準に基づき取り消すことを発表した。これは当時のフローレス駐コスタリカ米国臨時代理大使による表明であった。